

News letter

— ザ・ねんげい —

横浜市立大学
附属2病院看護部と看護学科
との連携会議

2010. 12
創刊号

創刊にあたり・・・



附属2病院看護部と看護学科との連携会議は、平成20年より教育・研究・実践・キャリア支援に関する連携方法等の検討を行ってきました。横浜市立大学の看護がさらなる発展をしていくためには、実践と教育の場が有機的な繋がりを持ちつつ、さまざまな情報交換や互いの特徴を生かした連携が重要と考えております。

ニュースレターを発行することを通して、附属2病院看護部と看護学科との連携の現状を広く知っていただくとともに、それぞれの役割の中で看護や教育等の質の向上を目指した活動のアイデアを生み出す場となりますことを願っております。

ニュースレターは年2回発行予定です。紙面上で多くの方々に登場していただきながら、過去・現在・未来のさまざまな活動を紹介していきたいと思っております。今後とも、皆様の温かいご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

連携会議委員長：野水 桂子

横浜市立大学附属2病院看護部と看護学科との連携会議 委員紹介

- <附属病院> 渡邊 三紀子、杉浦 由美子、島田 朋子、舘脇 美由紀、渡辺 昇 職員課長
<センター病院> 野水 桂子、濱崎 登代子、田中 淳子、大沼 教子、加藤 淳一 総務課長
<看護学科> 若狭 紅子、坂梨 薫、野村 明美、五木田 和枝、石田 英昭 学務/教務課長

理事長からのメッセージ

「附属2病院看護部と看護学科との連携会議」ニュースレターの発刊おめでとうございます。

今、全国の病院において看護師さんの不足が極めて深刻になっています。

こうした時期に、横浜市民を支える市大の附属2病院と看護学科ががっちり手を組んで、看護の質や魅力の向上を図ることは、市民サービスと大学の一体化を常に念じている理事長として、頼もしく思うと同時に大いに期待するところです。

看護師の皆さんが患者さんのことを第一に考え、探求心を持ってチャレンジできる魅力ある病院、そしてその人材を輩出する豊かな教育、それが私たちの横浜市立大学ですと、胸を張って言えるよう共に頑張りましょう。



横浜市立大学
理事長 本多 常高

1. 最近のトピックス!

附属病院

1) 病院ホームページの「看護師募集」に動画がアップされました!

●今までにない看護部の紹介動画です。

「看護部の素顔」という場面から入っていただくと、「病院概要」「病院長・看護部長の挨拶」「病棟紹介」「看護部の教育体制」などが続きます。

●病棟紹介

日頃、病棟で働く仲間や実習で会う部署のスタッフなど、素顔の人々が動画に登場します。他の部署の様子、また働き始めると見ることの少ない中央部門など、動画を通じて職員の皆さんも新たな発見があると思います。ぜひ、職員の方、学生の方、ホームページをのぞきにきてください。

「看護部の素顔」入口です。



2) 研修棟5階に看護学生実習控え室を作りました!

研修棟ってご存知ですか?今年新しく建て、当直室や更衣室なども入っています。その5階に看護学生用の実習控え室が出来ました。神奈川県立衛生看護専門学校・湘南短期大学の学生が主に使っていますが、医学部看護学科の学生の方もぜひお使いください。冷蔵庫・電子レンジだけでなく、実習に活用できる薬の本なども置いてあります。

3) 医療チームの見学、いつでもどうぞ!

ホームページの中にもありますが、附属病院には緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、NSTチーム、人工呼吸器ラウンドがあり、定期的に病院内のラウンド、コンサルテーションを行なっています。職員だけでなく、実習生・学生らの見学もいつでも受け入れています。ぜひ、興味のある方は、看護部教育担当師長の島田、確保担当の鈴木まで、お声をかけてください!



卒業生は今・・・

手術室看護師は、術野の間近で介助にあたるので解剖の知識もつき、数多くの診療科を学ぶことができます。初めての手術などは先輩方が一緒に振り返りをさせていただきます。

センター病院 手術部 鈴木弥寿葉
(看護学科 2回生)

卒業生は今・・・

3交替にも慣れ、わからない事も多くありますが、先輩に相談しながら元気に働いています。学生の皆さん、仕事は楽しいけれど、頑張れる楽しさや嬉しさがあると思います。一緒に働ける日を楽しみにしています。

附属病院 7-3病棟 竹内あかり
(看護学科 1回生)



センター病院

◆市民総合医療センターは、開院10周年!記念事業を行いました!!!

※10周年記念講演会開催 (10/3(日) 14:00~16:30 参加者:130名)

「センター病院10年のあゆみ」 平安 良雄 病院長
診療科紹介: 高度救命救急センター 森脇 義弘 先生
消化器病センター 國崎 主悦 部長
心臓血管センター 木村 一雄 部長
総合周産期母子医療センター 高橋 恒男 部長
特別講演: 「こころと体を若々しく保つ」 精神科医 和田 秀樹 先生



※ポスターパネル展示について

8月に参加募集を行いました。参加意向をいただいた各部署から、26枚(複数枚提出あり)のポスターを10月1日よりメディカルモールで展示しています。



APEC開催に向けての災害時訓練



病棟ラウンドで新人Nsと話をする院長



看護学科



1)看護学科

各学年ともに授業・演習・実習と看護の学習を深めている時期です。特に最終学年である4年生は、卒業論文も佳境に入り、学生個々の関心テーマに沿って研究成果をまとめています。国家試験への取り組みも含めて、苦難の中にも大きな成長を感じる学生たちを頼もしく思っています。

2)修士課程看護学専攻

今年度より開設した医学研究科修士課程看護学専攻は、12名の院生を迎えて約8ヶ月が経ちました。先端医療看護学分野（感染看護学、がん看護学、母子看護学）と地域生活支援看護学分野（精神看護学、地域看護学）それぞれに、専門性を探求すべく講義・演習、実習、そして研究に取り組んでいます。院生の半数が仕事との両立をしながらの学業生活ですが、学問を深めていく中で実践知と理論知を統合していく生き活きとした姿に、私達教員も大きな喜びと刺激を受けているところです。



今年度は、2月19日に第Ⅱ期試験を実施します。詳細については、学務課への問い合わせ、およびHPでご確認ください。



2. 教員の臨床における実践について

1) 廣瀬幸美

「小児科外来における重症疾患患児とその親の育児相談」
(附属病院)

廣瀬先生には、小児循環器の患者・家族に関わっていただいています。診察の場面では患者・家族の悩みや困っている事を聞き、朝のカンファレンスで外来スタッフと情報を共有し、看護に活かしています。今後も共に患者・家族に関わる中で、より良い看護が提供できればと思っています。
(附属病院：小児科外来 松林 京子)

2) 内山繁樹

「統合失調症患者への心理教育の実践」 (附属病院)

外来で、エビデンスに基づいた心理社会的介入プログラムであるIMR（疾病管理とリカバリー）の心理教育を実践しています。参加者が自己実現や求める生き方を主体的に追求するリカバリーの目標に向かって、病気の理解やストレス対処、再発を減らす等8セッションについて一緒に考え、宿題という形で課題に取り組み、人生の新しい意味と目的を創り出していける支援を目指しています。「私でも何かできるかなと思うようになった」「病気は誰のせいでもない」と知って気が楽になった」「自分だけが辛いのではないと思えた」という感想と参加者の意欲の向上や行動変容に驚いています。



3) 大舘敬一

「消化器外科外来における診療およびカンファレンスへの参加」
(附属病院)

4) 白井 輝

「内科外来における診療およびカンファレンスへの参加」
(附属病院)



3. 共同研究について

●今年度、取り組んでいる看護研究●

テーマ	担当
1) 「再入院を繰り返す心不全患者の実態調査」	看護学科基礎看護学：平田 明美 センター病院：心臓血管センター
2) 「人工股関節全置換術の術前筋力トレーニングが術後の歩行能力に与える影響」	看護学科成人看護学：渡部 節子 附属病院：7-2病棟
3) 「緊急帝王切開における夫の気持ち」	看護学科母性看護学：坂梨 薫、勝川 由美 センター病院：9-2病棟
4) 「BFH認定施設A病院における母乳育児支援の評価 一産褥退院時および1ヶ月健診時の母親への調査から一」	看護学科母性看護学：臼井 雅美、鍋田 美咲 センター病院：9-2病棟
5) 「臨床看護師による小児のプレパレーションを取り入れた 授業における学生の学び」	看護学科小児看護学：永田 真弓、廣瀬 幸美 附属病院：6-1病棟



Q.どのような進行状況ですか？

小児臨床看護では、平成19年(1回生)から子どもへのプレパレーションを日常的に行っている附属病院の6-1病棟看護師や小児CNSと連携し、プレパレーションの具体的な場面や子どもの反応をリアルに提示する講義をしています。臨床看護師による本講義の体験について、学生の学びの内容ならびに医療現場における子どもへのプレパレーションや倫理的配慮の認識を明らかにすることを目的に、昨年調査を行いました。本年7月、神戸市で開催されました日本小児看護学会で発表し、現在、同学会紙に投稿中です。

本研究を通じて、学生の捉えた学びが基本的なプレパレーションの概念に相当していたことを確認しました。なお、発達段階に合わせたプレパレーションの内容強化といった課題が明確となり、早速、今年度の講義に活かしています。
(看護学科 小児看護学：永田 真弓)

Q.取り組んでの感想は？

今回、学科の教員からのお誘いをいただき、共同研究をさせていただきました。研究を通して、学科と臨床の共同が学生の教育にとっても重要であることを再認識しました。

講義では臨床での具体的な事例を多く提示しました。学生は講義内容をリアルに受け止めることが出来ており、臨床で行なわれている看護や他職種との協働などを知り、より深く理解することが出来ていたようでした。

また、教員との話し合いを通して、今の学生の現状を知り、興味関心がどこにあるのかを理解することができ、有意義な時間を持つことができたと思います。

今後もこのような機会を通じて学科と臨床の交流を深め、より良い学習環境、職場環境を整えていけたらと思います。

(附属病院：NICU・6-1病棟 氏家 圭子、石井 さおり)



4. 院内研修の講師派遣について

1) 各研修

< 附属病院 >

- 「ケーススタディ導入（講義）」
成人看護学：諸田 直実
- 「看護研究導入（講義）」 成人看護学：諸田 直実
- 「看護倫理Ⅲ（事例検討）」
精神看護学：若狭 紅子
老年看護学：服部 紀子・青木 律子
小児看護学：永田 真弓
基礎看護学：塚越 みどり
- 「ステップⅢ フィジカルアセスメント」
基礎看護学：塚越 みどり



< センター病院 >

- 「事例検討ビギナーコース」
基礎看護学：野村 明美
- 「教育方法と評価」
基礎看護学：平田 明美



Q.1 どのように企画を運営していますか？

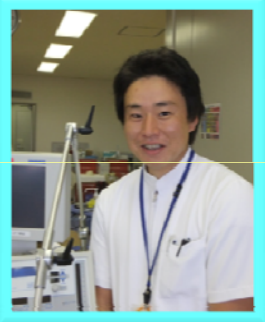
新採用者の研修のひとつであるフィジカルアセスメントは、夜勤に入る頃に改めて自分たちのフィジカルアセスメントを確認し、実践できることを目的に行っています。講義で基礎知識を確認するだけでなく、実技としてフィジコなどを使用し、肺音・心音を確認したり、心音のテストを行ったりしました。

(教育担当師長：島田 朋子)

Q.2 参加しての感想は？

看護学校で学び、実際に臨床に出て患者さんを観察しています。しかし、どこか自信がなく、聴診による異常音の原因など、知識もあいまいで不安でした。今回の研修で講義を受け、模型で演習を行なうことで、フィジカルアセスメントの理解に繋がり、自信を持つことが出来ました。患者の症状変化に気付けるよう研修で学んだ技術・知識を積極的に使っていきたいと思います。

(ICU：川上 征弘)



Q.1 どのような意図で企画していますか？

今年度、看護部教育委員会は、平田明美先生を講師にお招きし、教育委員を対象にした研修を企画しました。研修は、「支援すること」をテーマに、講義とGWで進められていきましたが、講義内容そのものを解釈・理解していくプロセスの中で、自己を振り返り、気づき、発見し、学ぶことを体験できました。新人看護師たちが自立していくために、臨床に求められていることは多々ありますが、今回の学びを実践に活かし、教育委員としての役割を存分に発揮していくことを期待しています。

(教育担当師長：田中 淳子)



Q.2 参加しての感想は？

今年より看護部教育担当として、役割を担っています。教育委員たちと講義を受け、「支援することは、どういうことか」だけでなく、「どう支援していくのか」を考える研修でした。物事の伝え方、対象の導き方、その時の環境調整など、常に思考し、支援することの大切さを学びました。

(教育担当看護師：佐藤 るみ)



2) 研究指導



《附属病院》

部署	テーマ	看護学科指導講師
6-2病棟 森 綾 他2名	助産外来における育児支援—2週間健診の支援内容の分析—	坂梨 薫 勝川 由美
6-2病棟 中村 政美 他5名	退院後の早期の助産外来における育児支援に関する研究 —2週間健診の評価—	坂梨 薫 勝川 由美
手術部 佐藤 沙奈美 他2名	間接介助看護師における個人防護具着用の必要性和視覚教材による教育効果の検討 (仮)	渡部 節子
8-2病棟 海野 智子 他3名	がん看護について	諸田 直美
泌尿器科外来 鈴木 友美 他1名	外来通院する先天性疾患児の養育の現状と外来看護に対する家族の認識	廣瀬 幸美
血液浄化センター 岩崎 和子 他2名	透析中の下肢浮腫によるSPPの変化	五木田 和枝
8-3病棟・無菌室 松川 恵梨子 他2名	子どもをもつがん患者とその子どもへのサポート体制について	廣瀬 幸美
6-4病棟 神津 和子 他1名	入退院を繰り返す高齢うつ病患者の再発予防を目指した看護について (仮)	若狭 紅子

Q.指導を受けての感想は？

研究プロセスをわかりやすくご指導していただく中で、看護の視点が広がるのを実感しています。仕事をしながらの研究は大変なこともありますが、これからも頑張っ取り組んでいきたいと思ひます。
(6-4病棟：神津 和子)

Q.指導をしての感想は？

日頃の看護実践の中での疑問を、研究を通して明らかにしたいという神津さんの意向を大切にしたいと思ひながら指導しています。研究プロセスと一緒に進めることを通じて、指導する私自身も臨床現場で生じている様々な課題を学ばせていただひています。
(看護学科 精神看護学：若狭 紅子)



Q.指導を受けての感想は？

今年研究でお世話になってひます。ビギナーで温めた知識と現場の課題の中から、テーマを絞るにあたっては、先生の優しく受け止めて下さる雰囲気の中で、臆せず疑問や悩みを表現できたことで一歩踏み出すことへの力をいただきました。自分達の思ひを認めてもらひながら、研究を進めてひっている感じがしてひます。
(NICU：佐々木 友佳梨 他)

Q.指導をしての感想は？

今回、NICUの研究指導を行ひ、最初はテーマも紆余曲折でしたが、与えられたプログラム以上に、NICUの子ども達や家族のために情熱を傾ける姿勢や、研究に対する真摯さに心打たれました。今後も楽しんで研究を進めていきたいと思ひてひます。
(看護学科 母性看護学：臼井 雅美)



《センター病院》

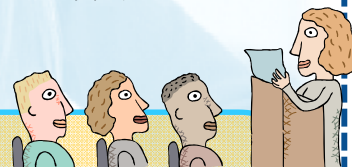
部署	テーマ	看護学科指導講師
NICU 佐々木 友佳梨 他4名	NICUにおけるスタンダードプリコーション (MRSA)について	臼井 雅美



5. 附属2病院から看護学科への 講師派遣について

《看護学科への講師派遣》

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1) 感染看護学：院内感染対策における看護師の役割 | (附属病院：感染管理担当師長 武田 理恵) |
| 2) 感染看護学：結核患者の看護 | (附属病院：9-1・4病棟 千代 浩子) |
| 3) 成人看護学特論Ⅰ：認定看護師の役割 | (附属病院：感染管理担当師長 武田 理恵) |
| 4) 成人看護学特論Ⅰ：緩和チームにおける看護の役割 | (附属病院：がん専門看護師 畑 千秋) |
| 5) 成人看護学特論Ⅰ：呼吸リハビリテーション | (センター病院：看護部 戸田 恵) |
| 6) 成人看護学特論Ⅰ：救急医療における看護の役割 | (センター病院：救急看護認定看護師 鈴木 久美子) |
| 7) 成人看護方法論Ⅰ・成人臨床看護学Ⅱ：AIDS患者の看護 | (附属病院：9-1・4病棟 松山 奈央) |
| 8) 成人看護方法論Ⅱ：人工肛門増設術を受ける人への看護 | (附属病院：皮膚排泄ケア認定看護師 後藤 真由美) |
| 9) 小児臨床看護：プレパレーション | (附属病院：6-1病棟 氏家 圭子・石井 さおり) |
| 10) 小児臨床看護：病院における子どもへの看護の実践 | (附属病院：6-1病棟 氏家 圭子・石井 さおり) |
| 11) 母性看護学特論Ⅰ：NICUの看護とその課題 | (センター病院：NICU 山口 真澄) |



Q. どのような講義内容ですか？

講師の先生に伺いました

「AIDS患者の看護」をテーマに90分の講義をしました。「患者の動向」をはじめ、「HIV/AIDSとは」では、言葉の定義や感染経路・検査内容を話し、「日和見感染症」の代表的な疾患の説明をしました。「HIV/AIDS患者の看護」では告知直後・初診時・治療開始時の患者の思いを実際の言葉で紹介し、看護師としての対応や教育法など普段行なっていることを話しました。最後に「感染予防策」として標準予防策、針刺し後の対応などを院内のマニュアルも用いて説明しました。

Q. 講師としての感想は？

私の学生時代には「HIV/AIDS」についての授業はなく、話題になることもありませんでした。しかし、現在では中学生から性教育の授業が行なわれており、マスコミなどで目にする機会も多くなっています。そんな中、日本のHIV感染症は増え続けている現状があります。

今回の授業から少しでも「HIV/AIDS」の興味を持ち、感染症と接するときだけではなく、正しい知識をもって日常生活を送って欲しいと思います。決して「HIV/AIDS」は人事ではないのですから・・・。

(附属病院 9-1・4病棟 松山 奈央)



合同臨地実習指導研修会の企画について



今年度、附属2病院と看護学科では、「臨地実習における学生の学習支援について、看護師と看護学科教員がともに考え学ぶことを通して、実習における協力体制および良好な学習環境づくりに繋げることを目的に“合同臨地実習指導研修会”を企画しています。

実習指導をしていく中で日頃実感している内容および疑問や課題について、お互いに出し合う中でできるところからの改善策を検討したり、また今年度作成した「臨地実習における学科と臨床の役割」の資料を確認しながら、実習指導における今後の方向性を見い出すことができたらと考えています。

この研修会は2回実施し、1回目は1/31(月)13-17時で対象は“臨床指導者と教員”、2回目は2/23(水)13-17時で対象は“日々の実習指導に関わるCDP2-3段階の看護師、臨床指導者、教員”です。初企画のこの研修会が実りある時間となり、その様子や成果を次号でご報告できたらと思います。

(連携会議・研修会プロジェクトメンバー：渡邊、舘脇、濱崎、大沼、野村、若狭)



6. 附属2病院から看護学専攻への 講師派遣について

《看護学専攻への講師派遣》

- 1) 実践看護管理論：医療安全・リスクマネジメントの現状と今日的課題
看護管理部門・各看護単位における看護管理の実際 (附属病院：看護部長 折津 礼子)
- 2) がん看護学特講Ⅱ：終末期がん患者と家族のかかえる苦痛・苦悩への援助
在宅がん事例への実践例と看護の課題 (附属病院：がん専門看護師 畑 千秋)
- 3) 感染看護学特講Ⅱ：熱傷に関連する看護方法 (センター病院：看護部 櫻井 美恵子)
- 4) 感染看護学特講Ⅲ：看護の最高責任者である看護部長としての役割 (附属病院：看護部長 折津 礼子)
- 5) 母子看護学特講Ⅱ：小児医療におけるインフォームドコンセント
集中治療を受ける子どもとその家族への援助
周手術期にある子どもとその家族への援助 (附属病院：小児看護専門看護師 染谷 奈々子)
- 6) 母子看護学特講Ⅲ：育児期における心理社会的問題とチームアプローチ (センター病院：小児看護専門看護師 長田 暁子)
- 7) 実践看護倫理：生命の始期および終期をめぐる倫理的問題 (センター病院：小児看護専門看護師 長田 暁子)

Q. どのような講義内容ですか？

講師の方へ伺いました

生命の始期に関する“生殖補助医療”“遺伝子学的検査”“再生医療”、生命の維持に関わる“移植医療”、生命の終わりに関する“終末期医療”について、法的解釈や様々な立場の考え方を紹介し、学生とともに何が倫理的問題となるのか、なぜ問題となるのかを議論しました。

Q. 講師としての感想は？

専門分野や臨床経験の異なる学生同士の議論の中で、倫理的問題の捉え方が一様ではないことが共通認識できたのではないかと思います。異なる意見を出し合いながら、かつ建設的に議論することを体験するのは大切で、現場に戻った時にチーム医療の推進や難しい問題の解決に活かされると思います。

(センター病院 小児看護専門看護師：長田 暁子)



Q. 講義を受けての感想は？

学生の方へ伺いました



「生命の始期および終期をめぐる倫理的問題」に関して、小児看護専門看護師のお立場から、実践的かつ最新のご講義をお聞きすることが出来ました。人の生や死に医療が大きく関与する時代になってきたからこそ、そこに携わる看護職にも高い倫理観が求められるようになっていきます。長田先生にはご講義だけでなく、人間の生命や倫理に関し、深く考える機会を与えていただき、それぞれが学びを深めることが出来たと思います。貴重なご講義をありがとうございました。

(修士課程看護学専攻 精神看護学：谷島 和美)

News letter - ザ・れんけい - 編集後記

横浜市立大学
附属2病院看護部と看護学科
との連携会議

発刊にあたり原稿を依頼しはじめて、あらためて看護学科との連携は多く行なわれているんだな、と感じました。原稿の依頼を引き受けていただいた方々、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします！（島田）

皆さまと共に歩むニュースレターとして親しんでいただき、連携活動の一層の活発化に役立つことができればと思います。企画等についてのアイデア、意見やニュース情報も歓迎いたします。引き続き、ご協力下さるようお願い申し上げます。（野水）

構想を温めてから約半年、ようやく創刊号の発行に漕ぎつきました。『ザ・れんけい』は、医療・看護・福祉のみならず、現代社会のあり方を示す重要なkeywordと思います。私たち横浜市立大学の看護実践と教育の連携が、さらなる市民や看護界への貢献に繋がることを願っています。（若狭）

皆さまからのご意見・ご感想・アイデア等ありましたら、編集委員までご連絡ください。

編集委員： 附属病院：島田 朋子
センター病院：野水 桂子
看護学科：若狭 紅子
制作サポート：看護学科：塚田 尚子

